平成20年度　病害虫発生予察技術資料　第１号

平成20年８月７日
島根県病害虫防除所

イネ縞葉枯病が県内各地で発生。基幹防除の徹底を！

近年発生がほぼ皆無であったイネ縞葉枯病が県内各地で確認され、一部地域では発病程度の高い圃場が散見されます。

本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。病原ウイルスはヒメトビウンカに一度取り込まれると経卵伝染によって次世代にも引き継がれることから、越冬世代の保毒虫率が高まり、次年度以降の発生も懸念されます。

現在、斑点米カメムシ類の注意報（７月30日付け注意報第２号）が発令されていますが、ヒメトビウンカの発生密度及び保毒虫率低減のためにも、これに基づく基幹防除を徹底してください。

記

１．病害虫名　　イネ縞葉枯病（媒介虫：ヒメトビウンカ）
２．発生地域　　県下全域
３．発生量　　多い

４．情報発表の根拠

１）７月第５半旬～８月第１半旬に行った巡回調査（150圃場調査）では、縞葉枯病の発生圃場率は6.0％（平年０％）、発病株率は0.35％（平年０％）と平年に比べて多い。

２）１ヶ月予報（８月１日広島地方気象台発表）によると、気温は高い確率50％で、晴れる日が多い見込みであり、ヒメトビウンカの増殖に好適な条件が予想される。

５．防除対策及び防除上の注意事項

斑点米カメムシ類の注意報（７月30日付け注意報第２号）が発令されていることから、これに基づく基幹防除（斑点米カメムシ、ウンカ類双方に登録のある薬剤による防除）を徹底する。

写真　縞葉枯病による奇形穂